

分野（ 2 ） 気管支ぜん息・COPD患者の健康回復に関する調査研究

研究課題名：客観的指標によるぜん息コントロール状態の評価

申請課題名：客観的指標による喘息コントロール状態の評価

調査研究代表者氏名：大 田 健

評価コメント

- ・前期からの患者教育テキストの改訂を行い、それを用いて実際に指導を行いその効果を評価しており、一定の成果が得られている。
- ・平成24年度に作成したテキストによる啓発・教育効果がACT改善に資し、HSP(70)の意義も明らかにされた。
- ・以前に作成した患者指導用テキストをJGL2012を参考にした患者指導用テキストに改定するとともにそれに沿った喘息治療の実行、喘息死ゼロを目指す。
- ・従来から用いられている指標のほかにHSPやモストグラフの利用や呼気NOのCOPD・喘息合併患者での検討を行った。
- ・ACT、モストグラフによる呼吸抵抗測定、スパイロ、呼気NO等、種々のツールを利用して、これ等の指標を組み合わせることによって、喘息の病態、管理状態を正確に表すことができれば臨床的、社会的有用性は非常に高くなる。
- ・新規の客観的指標での検索を多施設で行っている。
- ・モストグラフの諸指標とACTスコアとの相関性の検討も有意義。
- ・ACOSについてFeNO(呼気)、IgE(血中)などを指標にして喘息とした例にCOPD+とされる例がどの位あるのか、逆にCOPDとされた例(HRCTやDLco)の中での喘息の例の頻度についての分析は重要な今後の対策についての基礎データとなった。
- ・増悪の予知因子として前年の増悪、3年以内の入院などが明らかになったのは有用なデータである。
- ・成人喘息のコントロール評価に関しては、ほぼ完成したものと思う。
- ・一応目標は達成されたと思うがいかがか。
- ・喘息のコントロール状態の評価という観点からは、更なる新しい知見は得られないのではなかろうか。
- ・今後は地域医療、保健指導の場にどのように普及し、コントロール状態の改善に寄与するかが課題であろう。
- ・今後は研究班の症例だけではなく、より一般的な医師がこのテキストを用いて指導した症例の効果判定を行うことを希望する。

- ・我が国におけるオーバーラップ症候群の頻度について、ぜひ明らかにしてほしい。
- ・全体に各研究間の連携性に乏しく早期にこれらの関係をまとめて喘息患者のコントロール状態の適切な評価、さらには喘息死ゼロへに役立つ冊子の作成が必要ではないか。
- ・喘息コントロール状態を種々の客観的指標を用いて検討している点は、評価できるが、喘息増悪の予知因子として、前年の増悪歴、過去3年間の入院歴が示されているが、評価時点での治療の適切なステップアップなどについては、考慮されているのかどうか不明である。